

今週のビルマのニュース 2009年10月30日【0940号】

ビルマ東部の状況は「ダルフルにも匹敵」

・ビルマ難民・避難民に食料などを支給する「タイ・ビルマ国境支援協会」(TBBC)は29日、ビルマ東部の紛争地域の情勢がますます不安定化していると発表した。同地域では1996年以来3,500の村や集落が国軍により破壊されており、破壊の規模はスーダンのダルフルの状況に匹敵する。また、この1年だけで約7万5,000人が家を追われた。TBBCは、来年予定の総選挙までに同地域での情勢がさらに悪化するとの見通しを立てている(29日TBBC)。

ロヒンギャ庇護希望者の保護を鳩山政権に要請

・ヒューマン・ライツ・ウォッチなど8つの市民団体は29日、日本にいるロヒンギャ民族の庇護申請者を保護し、ロヒンギャ民族への人権侵害を止めるようビルマ軍政に強く働きかけるよう求める共同書簡を、千葉景子法務大臣と岡田克也外務大臣に提出した(ビルマ情報ネットワーク、ビルマ市民フォーラムも賛同)。アラカン州のバングラデシュ国境近くに住むロヒンギャ民族住民は、ビルマ国籍の保持を認められず、ビルマ国内で深刻な迫害や差別を受けている。日本にも、保護を受けられず不安定な地位に置かれているロヒンギャ民族が数十人いる。

キャンベル国務次官補のビルマ訪問は未定？

・米政府は近くビルマに代表団を派遣し、軍政や民主化勢力、少数民族団体と会談する予定だが、26日現在、キャンベル国務次官補が訪問に加わるかどうか正式には決まっていない(26日国務省記者会見)。

・米国務省は26日、世界各国の信教の自由に関する年次報告書を発表した。米国は1999年以来、信教の自由の侵害が深刻な「特に懸念される国」にビルマを指定している。

アウンサンスーチー氏、拘束期間が14年に

・自宅軟禁されている民主化指導者アウンサンスーチー氏は、1988年にビルマに帰国して以来、拘束で過ごした期間の合計が24日で満14年となった。

ASEAN 首脳会議、スーチー氏釈放に触れず

・23～25日にタイで開かれたASEAN首脳会議でビルマ民主化問題は焦点とならず、軍政への目立った批判もされなかった(25日AFPほか)。軍政のテインセイン首相は24日、タイのアピシット首相と

会談し、来年予定の総選挙の関連法をまもなく発表すると述べたが、軍政幹部はこれまでも度々、同様の発言を行っている(24日イラワディ)。

ビルマへの政府開発援助(ODA) 約束状況など

10月26日 ヤンゴン管区の学校校舎(5校) 建て直しのため草の根無償資金協力 38万7,121ドル

注目記事

工藤年博「ミャンマー新情勢と国際社会の課題」
(国際開発ジャーナル11月号)

イベント情報

・在日ビルマ人民化活動家のみなさん ディペーイン虐殺事件から77ヵ月(6年5ヶ月にあたって)ー スーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動(在日ビルマ大使館前、30日15～16時)

・日本ビジュアル・ジャーナリスト協会写真展 2009「世界187の顔」～生命の現場から～(キッド・アイラック・アート・ホール、11月3日～15日11～20時、最終日15時まで。11月5日18時半～佐藤文則・在日ビルマ人のトークショー「陰に追いやられる難民申請者」。予約先着順、有料)

・第1回移民映画祭 マレーシアのビルマ難民が受けた人権侵害の証言記録『HOME』上映、リム・デズリ監督と根本敬上智大教授との対談(上智大学10号館講堂、11月8日上映12時10分、対談13時)

・公開セミナー「フェアな未来を考える：フェアトレードとタイ国境で暮らすビルマの子どもたち」ビルマ国内の状況に関するドキュメンタリー映像の上映及びビルマ情報ネットワーク秋元由紀による解説あり(一橋大学佐野書院、11月8日13時半～)

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース(平日毎日更新)
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ

ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165